



国際

沿岸レポート

第4回 日韓沿岸技術研究 ワークショップ

(The 4th KIOST-PARI-CDIT-WAVE Joint Workshop)

一般財団法人沿岸技術研究センター
企画部 主任研究員 土田 真二

1. はじめに

韓国海洋科学技術院 (KIOST)、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 (PARI)、一般財団法人みなと総合研究財団 (WAVE) および当センター (CDIT) は、毎年合同ワークショップを通じて、沿岸防災、沿岸域管理および沿岸環境等の分野において、技術交流を行っています。第4回となる今年は、日韓の沿岸関係研究者および技術者を東京に招いて開催しました。10月3日から5日までの3日間、ワークショップの他、神戸港周辺の視察およびPARIの施設見学を実施しました。

2. ワークショップ

ワークショップは当センターの隣にあるTKP新橋カンファレンスセンターの会議室において開催され、参加者は約70名となりました。テーマは、1) Coastal Disaster and Response、2) Coastal Management、3) Coastal Environment、4) Technical Developmentの4つに分類され、3編ずつ計12編の発表がありました。例えば、1) Coastal Disaster and Responseのセッションでは、新たに考案した形状の消波ブロックの安定性に関する模型実験の紹介、また、3) Coastal Environmentのセッションでは、潮流を利用した海底設置型の発電設備に関する研究について発表がありました。

テーマごとの個別の発表の他、基調講演としてPARIの栗山所長による「Morphological change in the nearshore zone due to climate change」、特別講演としてKIOSTの朴(パク)本部長による「Application of an Open-Cell Caisson to Harbor Structures for Enhancing their Stabilities」(写真1)が行われ、参加された皆さんが熱心に聴き入っていました。

閉会後には、講演者および関係者一同による記念撮影が行わ

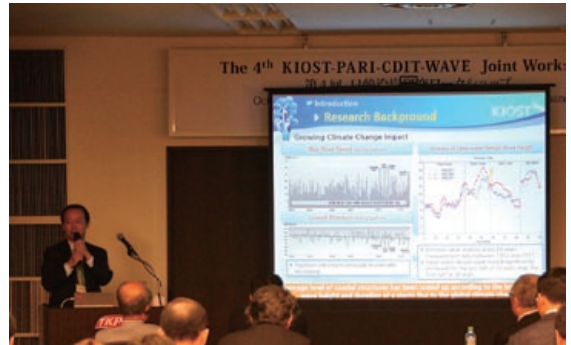


写真1 KIOSTの朴(パク)本部長による特別講演



写真2 講演者および関係者一同

れ、和やかな雰囲気で行われることが出来ました。(写真2)

3. 神戸港及び堺泉北港堺2区 基幹的広域防災拠点視察

10月5日当日は、台風18号の接近により強風となっていたため、予定していた海上からの神戸港周辺の視察を急遽取りやめ、陸上からの視察を行いました。まず、ポートアイランドにおいて、神戸市の担当者から港湾と街を一体的に整備した街づくりについて説明を受けました。次に、神戸市役所の展望台において、神戸港湾事務所の小野所長から神戸港の現況について説明を行いました。その後、堺泉北港に移動し、基幹的広域防災拠点の視察を行いました。急に雨が降るあいにくの天候でしたが、KIOSTの皆様は、熱心に話を聞かれ、神戸港の港湾を中心とした街づくりや最近韓国でも地震があったことから、日本の災害対応について非常に関心が高い印象を受けました。

4. おわりに

ご講演頂いた皆様、並びに視察においてご協力を頂いた神戸港湾事務所の小野所長、中川課長、大阪港湾・空港整備事務所の横山副所長、石田課長、近畿圏臨海防災センターの谷淵センター長に厚く御礼申し上げます。また、KIOSTの安博士並びにPARIの下迫特別研究主幹には、大変お世話になりました。ここに記し、謝意を表します。